

第5学年「算数」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 基礎的な計算問題など反復学習した問題の正答率が高い。

課題 ▼ 既習事項を使って問題解決をすることが苦手な児童が多い。

▼ 文章題からの立式が苦手な児童が多い。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 基本的な四則計算を確実に解く技能。
- ◇ 文章を読み取り、式を立式する力
- ◇ 既習事項を基に問題に取り組む姿勢
- ◇ ノートに自分の考えを整理し説明する力。

具体的な改善策

- 四則演算を取り扱う単元を多めに取り、既習事項の練習時間を設ける。
- 文章題の単位から立式の仕方を考えたり、内容を図や表に表したりして問題場面を把握できるようにする。
- ノートに自分の考えを整理して、みんなの考えを共有する問題解決の場面を行うことを通して自分の考えを整理し説明する力を育む。

達成目標

- 整数の性質、分数の意味、小数と分数の計算の意味、面積の公式、図形の意味と性質、図形の体積、速さ、割合、帯グラフなどについて理解し、計算、図形の性質、図形の面積や体積、表やグラフに表したりする技能を身に付ける。
- 数とその表現や計算の意味に着目し、数の性質や計算の仕方などを考察する力、図形の性質や図形の計量について考察する力、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。
- 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。